



発行者

北海道へき地・複式教育研究連盟
www.hamanasu.com./dohekire

委員長 河田 茂

編集責任者 高田 宏昭

印刷所 広小路印刷株式会社

滝川市一の坂町西3丁目1番31号 TEL0125-22-4325

題字 書家 濱谷 彩鶴 (はまや さいかく) 氏

第63回

北海道へき地複式教育研究大会

十勝大会特集号

大空と大地の恵み「十勝野」に生き

新しい時代を切り拓く子らに

豊かな心と確かな学力を

聖地からの新たな一歩

北海道へき地・複式教育研究連盟委員長 河田 茂



「大空と大地の恵み『十勝野』に生き 新しい時代を切り拓く子らに 豊かな心と確かな学力を」の大会スローガンのもと、10月16日・17日の2日間、第63回北海道へき地複式教育研究大会十勝大会が8町1村9会場で開催されました。

雨模様の天候にもかかわらず、全道各地より多くの皆様に参加していただき、盛会裏に終えることができました。本大会にかかわっていただきました全ての皆様にまずもって厚くお礼申し上げます。

十勝大会開催は平成12年度以来14年ぶりの開催となりました。当時は十勝管内にも複式校が66校ありましたが、現在は42校になってしまいました。それでも道内最大の複式校を有しています。また、十勝は、昭和27年に第1回全国単級複式教育研究大会が開催され、全国へき地教育研究連盟が結成された、へき地教育の聖地とも言ふべき場所です。ここ十勝において、十勝へき地・複式教育研究連盟では、管内共同研究体制を進めるべく描いたグラウンドデザイン『十勝の複式教育』に基づき、総力を挙げて大会開催にあたっていただきました。各分科会場では、学校や地域の実態に合わせて、

へき地性・小規模性・複式形態の三特性を最大限に生かした教育実践が発表されました。へき地・複式教育の模範的実践を全国に発信してきた十勝連盟の歴史と伝統の厚さをまざまざと感じさせられました。

また、道へき・複連としても、加盟校の減少に伴う組織・研究体制見直しの一環として、この十勝大会から1日目の全体会に3本の実践発表を組み入れる新たな試みを実施しました。この分散会も、全道の優れた実践を交流し合う場として大変有意義であったと確信しています。

次年度の本大会開催地区であります宗谷におきましても、9月にプレ大会を盛会のうちに終えることができました。道へき・複連としましては、第9次長期5か年研究推進計画の初年次として、まずは順調なスタートを切ることができたと考えています。この研究成果をしっかりとまとめ、より一層研究実践の充実に努めていきたいと思いません。次年度の宗谷大会の成功に向けたご理解とご協力につきましてもよろしくお願ひいたします。

終わりになりますが、十勝大会の開催に際しまして北海道教育委員会をはじめ関係諸団体のご指導ご支援をいただきましたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

第63回全道へき地複式教育研究大会十勝大会を終えて



北海道教育庁十勝教育局
局長 上野 靖

北の大地を開拓した先人のフロンティア精神を受け継ぐ十勝の地で、第63回全道へき地複式教育研究大会十勝大会が「大空と大地の恵み『十勝野』に生き 新しい時代を切り拓く子らに 豊かな心と確かな学力を」を大会スローガンに掲げ、全道各地から、多くの先生方をお迎えし、成功裡に終えましたことに心からお喜び申し上げます。

北海道へき地・複式教育研究連盟におかれましては、毎年、全道を会場に公開研究会を開催され、少人数・複式の特性を生かした実証的な研究を積み重ね、本道のへき地・複式教育の振興に多大な貢献をされておりますことに心から敬意を表します。

また、十勝大会において、授業公開や実践発表をされました9つの会場校の校長先生と教職員の皆様、また、全面的な支援をいただいた32校の研究協力校と十勝・へき地複式連盟研究部員の皆様方には、事前の授業交流や研究協議など、組織的・継続的な取組を推進いただき、深く感謝申し上げます。

さて、知識基盤社会やグローバル化、高度情報化社会の到来を受け、子ども一人一人が将来においてその可能性を開花させ、自らの人生を幸せに過ごすことができるよう、社会で自立していくために必要となる基礎的な力を育成することが求められております。

このため、学校教育においては、子どもたちに知・徳・体のバランスの取れた「生きる力」を確実に身に付けさせることが極めて重要です。

このような折、本研究大会では、少人数・複式の特性を生かした研究を積み重ねられ、子どもの理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導や、子どもが課題を自力解決する指導過程の工夫に加え、言語活動の充実やICTの活用など、確かな学力を高める学習指導を提案され、多大なる成果を挙げられたと伺っております。

今後とも、各学校におかれましては、未来を切り拓く子どもたちの育成に向け、これまでの研究成果と課題を踏まえ、授業改善を進めていただき、本道のへき地・複式教育の一層の充実を図っていただきますよう、お願いいたします。

結びに、北海道へき地・複式教育研究連盟と十勝へき地・複式教育研究連盟の益々の御発展を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



第63回全道へき地複式教育研究大会十勝大会
実行委員長 小澤 浩幸
(鹿追町立瓜幕小学校長)

西に連なる日高山脈、北にそびえる大雪山系、東に続く阿寒の山々を越え、鮮やかに錦織りなす紅葉の広がる十勝野に、道内各地から約700名の皆様をお迎えし、第63回全道へき地複式教育研究大会を開催できましたことにつきまして、十勝大会実行委員会を代表し、心から感謝とお礼を申し上げます。

1日目は、開会式後の基調報告に続き、初めての取組となる分散会が行われました。長万部町立静狩小学校 三浦哲也校長、えりも町立東洋小学校 高橋郁子教諭、中富良野町立旭中小学校 青山貴教諭の提言をもとに、各学校や地域の実情を踏まえた協議が交わされ、閉会式後の歓迎交流会もより濃密な時間を共有する場となりました。

2日目の分科会は、9町村9会場における公開授業と研究協議でした。どの会場も、時に真剣に、時に破顔で子供たちと指導者が紡ぎ出す授業を撃実に見つめる参加者の熱気で立ち満ちていました。

本十勝大会は、第9次長期5か年研究推進計画の初年度の開催となります。研究主題「主体的・創造的に学び、豊かな心でたくましくふるさとを切り拓く子供の育成」に向け、グランドデザイン「十勝の教育」をもとに、昨年のプレ大会での成果と課題を踏まえた会場校とその周辺の研究協力校とで総力を結集した取組です。皆様方からいただきました貴重なご意見に感謝するとともに、次回宗谷大会へと引き継がれ、一層の研究深化に結び付くことを期待しております。

一人一人を見つめ、頑なに子供たちの可能性を信じ、よさを最大限伸ばそうと努めることは、へき地・複式教育の一貫した姿勢です。今年度末に閉校予定のある学校では、「この学びやを巣立つ子たちみな 人のためになる人になれ」と刻まれたプレートが、ずっと子供たちの登下校を見守ってきました。例え学校は無くなるろうとも、この思いは私たち全ての変わらぬ願いです。

最後になりましたが、プレ大会及び本大会の開催にあたり、多岐にわたるご支援・ご指導を賜りました北海道教育委員会、北海道教育庁十勝教育局、北海道へき地・複式教育研究連盟、十勝管内各市町村教育委員会等、教育関係機関の皆様方に深く感謝申し上げます。

基 調 報 告

第63回全道へき地複式教育研究大会十勝大会
研究部長 原 見 寿 史



【はじめに】

昭和23年、教育に対する熱き情熱と使命感に燃えたへき地・複式校に勤務する先輩たちが一堂に会し、参加16町村をもって十勝単級複式教育連盟が誕生した。昭和27年には

帯広市を含めた8市町村で第1回全国単複教育研究大会が開催され、その後も4度にわたって全道へき地複式教育研究大会が開催されるなど、十勝はへき地・複式教育の充実・発展に先駆的な役割を果たしてきた。

十勝へき地・複式教育研究連盟がこれまで進めてきた主な研究活動としては、全加盟校が集う管内へき地複式教育研究大会、4つの方面による方面複式教育研究大会、各町村の町村複式教育研究大会の開催。初めて複式を経験する教員を対象とした複式新任教員研修会。管内共同研究の指針となるグランドデザイン「十勝の複式教育」の作成。北海道教育大学へき地教育研究支援部門と連携した教師力向上ワークショップなどがあげられる。

そして、昨年度は十勝プレ大会が開催され、会場校とその他の全加盟校の協力体制のもと、分科会実行委員会を基盤にした共同研究が進められた。

【研究主題】

「主体的・創造的に学び、豊かな心でたくましく
ふるさとを切り拓く子供の育成」
～へき地・複式教育の特性を生かし、児童生徒
一人一人に未来に『生きる力』をはぐくむ
学校・学級経営と学習指導の充実をめざして～

【大会スローガン】

「大空と大地の恵み『十勝野』に生き 新しい時代を切り拓く子らに 豊かな心と確かな学力を」

【十勝大会の方針及び研究内容】

十勝大会の方針については、次の5点とした。

①第9次長計の初年度の大会として、第8次長計及び十勝プレ大会の成果と課題を踏まえること

もに、第9次長計で新たに加わった研究内容を積極的に取り入れ、第9次長計の実践検証のスタートとしていく。②三特性を最大限に生かした、少人数ならではのよさが生きる指導方法や指導体制の工夫改善を図る。③とりわけ、間接指導のさらなる充実を図るとともに、柔軟な学習過程の研究を深め、さらに、小規模性を生かした個に応じたきめ細かな指導と評価の一体化を図る。④分科会実行委員会による共同研究体制の中で、課題を明確にした一体感のある授業改善を進めていく。⑤複式教員研修塾、大学連携事業等、十勝大会へ向けた十勝ならではの研修活動を通して、十勝の複式教員の授業力向上に努めていく。

また、十勝大会において、第5課題にかかわっては、指導と評価の一体化、確かな解決の見通しと自力解決力の育成、第6課題にかかわっては、学習リーダーの育成、学びの系統性、同時間接指導等による間接指導の充実、指導の重点を明確にした学習過程、第7課題にかかわっては、言語活動の指導計画等への位置付け、ICTの積極的な活用、ノート指導の工夫、第8課題にかかわっては、地域素材の積極的な教材化、学校と家庭・地域との連携をそれぞれ研究の重点とした。

【研究の成果と課題】

《成果》

○十勝大会の共通課題である「間接指導と柔軟な学習過程」「きめ細かな指導と評価の一体化」「言語活動」「ICT活用やノート指導」について、組織的に取り組むことができた。

《課題》

○さらに三特性を生かした少人数ならではのよさが生きる指導方法の工夫改善に努める。
○「言語活動」「ICT」など第9次長計の重点について研究を深める。

【おわりに】

十勝大会開催にあたり、北海道教育庁十勝教育局、北海道へき地・複式教育研究連盟、各市町村教育委員会、北海道教育大学等、大会関係機関の皆様からご支援とご協力をいただきましたことに心より感謝申し上げます。

分散会報告

【学校・学級経営分散会】

豊かな心を育む学校経営の創造と推進
～静狩にある教育資源を活用した

教育活動の推進～

長万部町立静狩小学校 校長 三浦 哲也

■提言概要

研究仮説を「ふるさとに目を向け、静狩の『人・もの・自然』との交流を深めたり、体験活動をしたりすることで、地域の大切さや人の優しさに触れ、ふるさとを愛する、他を思いやる気持ちを培うことができるのではないかと」として、研究を推進している。

成果としては、ふるさと教育の全体計画や指導計画を作成することで、ねらいや取組内容を明確化できた。また、地域の人や自然のよさを知ることができ、かわりをもとうとする子が増えた。自校の様子を発信することは書く力を育むきっかけとなった。さらに、地域の方々の声かけや賞賛が子どもたちの自信につながっていることなどがあげられた。

課題は、より積極的に地域へ働きかける取組に発展させることやキャリア教育の視点に立つ内容への見直しが必要な点である。

■研究協議

討議の柱を「家庭・地域と連携した道徳的実践力を育むためには、どのような経営戦略を立てて学校経営を推進していけばよいか。」として、ふるさと教育や小中学校の連携、キャリア教育の取組について協議した。

助言者からは、学校として計画的・組織的に取り組んでいるところが良い。各学校においても、計画に道徳との関連を位置付け、指導の状況を検証し、見直しの機会を設けて組織的な指導につなげてほしい等の講評をいただいた。

【学習指導①分散会】

児童が意欲的に取り組み、
自ら考え判断し、豊かに表現するために
～自力解決の場と手立ての工夫～

えりも町立東洋小学校 教諭 高橋 郁子

■提言概要

研究仮説を「児童一人ひとりの実態と課題をとらえ、自力解決の場と手立てを工夫することにより、深く考え、課題解決できる力を高めていけるだろう。」として研究を進めた。研究内容を①各種調査による児童の実態把握と課題克服の手立て②書く活動を取り入れた自力解決の手立てとした。

成果として、各種調査結果等をしっかり把握することで、「個に応じたきめ細やかな手立て」を講ずることができた。学習過程のわかるノートにより、次の学習に生かすことにもつながった。

課題は、論理的に発表することや課題把握して自力解決に向かうまでに時間がかかることである。

■研究協議

協議の柱を「課題意識を持って主体的に学習に取り組ませるためには、学習指導過程のなにをどのように

工夫したらよいか」として協議を深めた。取組が具体的で、一貫して取り組んでいることに高い評価を得た。また、「活用力」「応用力」をどう高めるか、少人数での「練り合い」の工夫など、貴重な意見が出された。

助言者からは、①朝学習や放課後学習、学習と結び付く家庭学習などが取り組まれている。②ノート指導、学習規律、学習環境等が学校全体で取り組まれている。③課題を明確にし、考えを深める指導がなされている等、今後も継続指導が大切とのご講評をいただいた。

【学習指導②分散会】

生き生きと、自ら進んで学び続ける子ども
～「生活科・総合的な学習の時間」を
窓口として～

中富良野町立旭中小学校 教諭 青山 貴

■提言概要

「既存の学習した知識・理解をどのように自分の持つ課題解決に生かしていけるか」という課題から、国語科で培った力をもとに、「生き生きと、自ら進んで学び続ける子ども」を研究主題として掲げ、生活科や総合的な学習の時間を通して研究を進めてきた。

「めざす子ども像」を全教職員で検討し、目標を再確認するとともに、子どもたちの実態から6年間で身に付ける力を具体化した。地域や関係団体との連携から始め、年間計画を見直しながら形のあるものにしてきた。また、「めざす子ども像」の定期的な確認、見直しを行っている。

成果としては、評価で「子ども像」と「各学年の総合的目標」や「活動のめあて」を意識させ、子どもたちに成長の実感をもたせることができた。また、教師全員が「めざす子ども像」を共有することで、当事者意識をもち研究に参画することができた。

■研究協議

協議の中では、自然・環境・もの・ひと、そして産業と学校が結び付き、地域に根ざした実践になっているとの評価を得た。旭中っ子祭りで地域の方に作ったカレーを食べてもらい、ほめられることで子どもたちに地元野菜への愛着、地域への愛着が育っていった。

助言者からは、前研究が生かされており、積み重ねが分かる。じっくりと考えさせる課題解決の技法を他教科にも還元してほしい等のご講評をいただいた。



各 分 科 会 報 告

〈第1分科会：音更町立南中音更小学校〉

1 研究主題

ことばの力、どんどん発信!!
～いきいきと表現し、伝え合う南中っ子～

2 研究仮説と成果

仮説1 「つきたい力を明確におさえ、系統的に指導することにより、発達段階に沿った言語能力が身に付くだろう。」

前後学年との関連や言語活動を意識した年間指導計画と、年間の単元を見通した「オンラインスタディ」を作成した。その結果、指導の流れが明確になり、各学年や単元でつけるべき力がはっきりした。

仮説2 「相手意識・目的意識を明確にし、表現する場や話し合い活動を確保することにより、進んで自分の思いを伝える力が身に付くだろう。」

1単位時間ごとの表現する場、他教科や行事などにおける表現の場を設けた。その結果、言葉や表現に対する意識が高まり、相手にわかりやすく伝えようとする姿や場にに応じた態度が見られるようになった。

仮説3 「語彙の量を増やし、伝達技術を高める指導を工夫することで、生き生きとした表現能力が身に付くだろう。」

全校朝学習「むぎっ子タイム」では受け答え方や言葉遊びなどを行った。生き生きと表現する姿や、学んだことが授業や活動の場で生かされていた。

また、研究協議における討議の柱を①「系統性を意識し、年間を見通した指導について」②「言語活動や表現活動の充実について」とした。

①について「単元の系統性を意識したオンラインスタディは系統的に整理されている」「児童にとっても教師にとっても年間を貫いた言語活動を行う上で、見通しを立てやすい」などの意見が出た。②にも、「むぎっ子タイム」など、様々な言語活動の中で、子どもたちの表現力は大きく成長しているとの評価を得た。



3 今後の課題

自分の思いを発信するに留まらず、受信したことについて自分はどう考えるなど、さらに表現力のステップアップが望まれる。

〈第2分科会：士幌町立上居辺小学校〉

1 研究主題

自ら学び、いきいきと表現し合う子どもの育成
～学ぶ意欲を高める手立ての工夫を通して～

2 研究仮説と成果

仮説1 「個人思考において、課題への取り組みせ方を工夫することによって、ひとりひとりの考える力を育て、表現する意欲を高めることができるであろう。」

思考の場としてのホワイトボードとノートの位置付けを明確にして指導した。また、系統立てたノート指導や自他の考えの比較に「交流メモ」を取り入れた。

仮説2 「交流の仕方を工夫することによって、認められる喜びや伝え合うよさを実感し、いきいきと表現し合う子どもを育むことができるであろう。」

互いの意見を反映させる交流に取り組んだ。児童の考えを把握するための同時間接の時間を取り入れたり、観点に沿った話し合いを意識させたりすることで、いきいきとした交流につながると考えた。

公開授業で、3年生は3つのかけ算の場面を、図や式など自分なりの表現方法を用いて考え、



互いの共通点を見つけ、類別しながら結合法則の理解を深めた。5年生も整数のわり算で、割り切れない時の商の表し方を考え、交流の中で小数や線分図での考えから面積図を用いた分数の考え方につなげることができた。

研究協議における討議の柱を、①「思考を深める学習方法の工夫（ホワイトボードやノートの活用について）」②「表現力を高める指導方法の工夫（考えを交流させる手立ての工夫について）」とし

た。

発達段階に応じたホワイトボードやノートの指導により、書き込みが簡潔で分かりやすく、交流で生かされていた。また、観点を意識した交流により自分の発表だけでなく、相手の考えを深く読み取ろうとして学習を深める話し合いにつながっていた。

3 今後の課題

授業のねらいに迫るため、グループやペアでの交流などの有効活用が必要である。また、交流の中で教師が仲介となって話すことが多い。児童が中心となって練り合えるような手立てを工夫していく必要がある。

〈第3分科会：上士幌町立萩ヶ岡小学校〉

1 研究主題

意欲をもって課題に取り組み、

自分の考えを伝え共に学び合う子どもの育成
～算数科における言語活動の充実と

授業展開の工夫～

2 研究仮説と成果

仮説1 「提示する課題や提示の仕方を工夫することにより、子どもたちの意欲を引き出し、手立てを工夫することで、課題解決に向けた自分の考えを明確にもつことができるのではないか。」

問題・課題の設定や提示の工夫、自力解決のために見通しをもたせる方法などについて研究を進めてきた。掲示物の活用や学習コーナーの設置などで、児童が解決の見通しをもち、自力解決の助けにもなった。



仮説2 「子どもが考えたことを全体に広げるための場を設け、伝えるための表現の仕方を工夫させることで、学習に深まりをもたせることができるのではないか。」

ホワイトボードの活用など表現の仕方の工夫や意見交流の視点の明確化などについて研究を進めてきた。ホワイトボードを活用してまとめや発表がスムーズに行えるようになり、「話す・聞く」の基本ルールが定着してきた。

仮説3 「友達のいろいろな考えを聞き内容を理

解し、よりよい考え方へと練り上げることで、さらに学習が深まるのではないかと」

学習を深める話し合い活動のために、目的の明確化やまとめ・ふりかえり場面の確保について研究を進めてきた。要点を絞って意見を述べたり、「まとめ」を子どもたち自身で考えたりできるようになってきた。

公開授業については、「低学年でも自力解決や話し合いができていた」「教室掲示やヒントボックスも工夫されていた」「作業に没頭しすぎた学年もあったので担任は冷ますことも必要なのでは。また、数を言語的に表現させることも必要では」などの意見が出された。

3 今後の課題

間接指導に移る際の発問の工夫、すべての子が分かるためのレディネス調査の必要性などが課題とされた。

〈第4分科会：鹿追町立上幌内小学校〉

1 研究主題

自信をもって考えを伝え合う子どもの育成

2 研究仮説と成果

「自信をもつ」「考えをもつ」「伝え合う」をキーワードに、『伝え合いの充実』を目指し、体育科の研究を進めてきた。

仮説1 「単元や教材、場の設定を工夫することにより、運動の楽しさを味わい、進んで取り組むことができる。」

仮説2 「導入場面において、課題や発問を工夫することにより、動きを試したり友達の動きを見合ったりしながら、自分の考えをもつことができる。」

仮説3 「交流場面において、伝え方を工夫することにより、動き方や動きのポイントがわかり、運動に生かすことができる。」

公開授業5・6年生「五人でアタック！キャッチバレーボール（ネット型）」では、本時の目標を「返球に合わせてレシーバー・セッターの役割を決め、その役割に応じてプレーできる。」とし、前時の困り感から「(中間の返球のとき)レシーブは、誰がする？」



という焦点化した課題を設定した。チームごとに練習や試合を通した伝え合い活動の中で、よりよい役割分担や約束決めに気付いていった。

研究協議での討議の柱①は、「少人数学級における子どもの運動意欲を高める教材や場の工夫の在り方」であった。体育の時間での継続した取組が、子どもの体力や技能の向上とともに、学習意欲や自信につながっている。少人数に応じたルールでの本教材が、意欲的な運動への大きな要因になっているとの評価を得た。

柱②「課題の解決の仕方がイメージできる発問や支援の在り方」では、各チームがうまくいかない点を振り返るために、教師のアドバイスが適切であった、柱③「作戦や動きのポイントを共有し技能の習得につながる『伝え合い』の在り方」では、作戦会議が活発に行われ、他者理解となっていたなどの意見があった。

3 今後の課題

技術の向上だけでなく、さらに考え、運動を工夫することや相手に意思を伝える方法の習得が大切である。

〈第5分科会：芽室町立上美生小学校〉

1 研究主題

進んで人とかかわり

思いを伝え合う子どもの育成
～対話を通して学びを創造する
国語科の授業づくり～

2 研究仮説と成果

仮説 「子どもたちと学びの共有化を図り、対話する場を設定し、共感・実感・学び合いのある授業づくりを行うことで、進んで人とかかわり、思いを伝え合う子どもを育成することができるであろう。」

検証のために、
視点1「学び合う子どもを育てる支援」と視点2「学び合いを促す言語活動」



を設定し、3年計画で実践してきた。

視点1では、学年別指導への対応として、主体的な学習の構築を目指して一人学習の設定やリーダー学習、臨機応変な小わたりを実践してきた。子どもの意識をつなぐ支援として、様々な場面や

児童に応じた支援をすることで、児童同士で助言し合う自立的な学習へとつながっていった。

視点2では、題材分析を深めることを中心に、単元を貫く言語活動を設定し、目的や課題を共有した小集団や全体での交流を積極的に取り入れてきた。表現技術の向上や見通しをもった表現準備ができるようになった。

研究協議では、「題材分析」や「学びの自立」を中心に協議を深めた。教師が細かく題材を読み込み、計画的に学習を進めていることや、学年に応じて一人学習や児童同士の対話を通して一人一人がクローズアップされていたなど、多くの点で評価を得た。

助言者からは、「個の活動を予測した支援の準備」や「対話や発表で相手の意見を書き留め、自分の考えと比較する指導の必要性」などについて講評をいただいた。

3 今後の課題

個の思いを言語活動と結び付けていく単元化の在り方や、個の学びから集団での学び合いへの展開などについては、さらなる研究の深まりが期待されることとなった。

〈第6分科会：更別村立上更別小学校〉

1 研究主題

自らの学びを追究し、

豊かに表現できる子どもの育成
～「間接指導の学び」や「自主的な学び」を大切にし、思いを育む子どもをめざして～

2 研究仮説と成果

仮説1 「国語科の基礎的・基本的な力の定着を図り、『自ら課題にとりくむ学習過程を工夫して取り入れる』ことにより、子どもたちは、課題を追究・解決していくための力を高めることができるのではないか。」

課題解決のための手立てを明確にすることで主体的な子どもが育ってきた。

仮説2 「『支持的風土をもとに、交流する場を設定する』ことにより、子どもたちは、互いに認め合い、刺激し合って、自信・意欲・思考力・表現力を高めることができるのではないか。」

仮説1で得られた自分の考えや思いの確立が、自信をもって表現したり、他者とのかかわりを強めたりする力につながった。その結果、豊かに表現できる子どもが育ってきた。

公開授業では、低学年のうちからていねいな振り返りや読みを広げたり深めたりするための手立てが工夫され、活発な意見交流がなされていた。それらが、高学年での「読み込み」「調べ込み」「書き込み」をもとにした話し合いへとつながっていた。

研究協議では、討議の柱を①「一人学びが、課題を追究する力や思考を深める力につながったか」②「支持的風土をもとに交流する場は、自信・意欲・思考力・表現力を高めたか」とし、協議を進めた。

①については、「一人一人の課題追究の力が高い」「読むことに関する系統表の活用や音読回数の確保、ワークシートや辞典の活用が、課題追究や思考を深める力につながっていた」等の意見や感想が出された。

②については、「どの学級も支持的風土づくりができていて、活発な交流の様子が見られた」「話すこと・聞くことの系統表を基に、さらに子どもの実態に合わせた指導が自信や意欲、思考力・表現力を高めることにつながっていた」等の意見や感想が出された。

3 今後の課題

助言者からは、「指導内容の精選」「主体的学びの重要性」「目的意識を持たせた話し合い」「既習事項を想起できる学習環境」「発達段階に応じた指導」「見通しを持たせた言語活動」「発問の精選」などについて講評をいただいた。さらに充実を求めたい。



〈第7分科会：幕別町立糠内小学校〉

1 研究主題

「こだわり」につなげ、
「こだわり」を広げる学びの創造

2 研究仮説と成果

仮説 「子どもが学習課題に『こだわり』をもって、探究する活動に取り組むことで、基礎・基本の定着や伝え合う活動を深めていくことができるであろう」

検証のために研究内容を3点設定した。研究内

容1では、学習内容と生活経験を関連させながら課題を追究・解決する活動及び学習内容や理解したことを意図的に表現して解決する活動の充実を図った。研究内容2では、「こだわり」をもとに学びを深め合う指導の工夫により、自分の意見を生活経験と結び付けて伝え合うことに取り組ませた。気づきや考えをわかりやすく伝え合うために、数値や図、表などに関連させながら、自他の考えをより良い方法で解決するコミュニケーション能力を高めた。研究内容3では、学習の始まりやまとめの中で「確認ドリル」をすることにより、子ども自身が客観的に学習を振り返り、次の学習内容の具体的な想起につなげることができた。また、授業者の指導の改善にも結び付いた。

研究協議では、討議の柱を「①主体性を育てる学習指導過程の改善・充実」「②学ぶ意欲を高める指導方法の改善・充実」とし、協議を進めた。教材の与え方、課題把握からまとめまでの指導過程、間接指導時の学習ルール、確認ドリル、iPadを用いた児童のノート提示と工夫等についての質問と意見が交わされた。課題追求においてICT機器を効果的に使い、児童が自己の考えを説明、表現することに高い評価を得た。



助言者からは「算数的用語をしっかりと押さえた指導である」「継続的な指導により発表力(説明力)が各学年を通して身に付いている」など、複式教育の質的な高まりのある研究内容との講評があった。

3 今後の課題

ICTの効果的な活用場面や使い方について、さらに研究を深めるとともに、子どもたちの表現力やコミュニケーション、伝え合う力の質的向上を図りたい。

〈第8分科会：本別町立仙美里小学校〉

1 研究主題

進んで考え、思いを伝え合う子どもの育成
～できる喜びを味わわせる算数科の指導の工夫～

2 研究仮説と成果

仮説1 「子どもの活動を楽しもうとする態度を

引き出す算数的活動を工夫することにより、進んで学習する子どもが育つだろう。」

一単位時間の学習の流れを一定にすることにより、学習の流れが子どもたちに身につくこと、次の学習活動の予想がつくことで学習意欲向上につながっている。

仮説2 「知識・技能を養う場面を意図的に設定し、課題解決の方法を習得することにより、算数科の基礎基本や『学び方』を身につけた子どもが育つだろう。」

コンパクトで明確な課題を設定し、問題の文章や条件を正確に押さえてから自力思考に入るようにしている。ガイド学習の進め方は、学年が上がるにつれて子どもたちに定着してきている。

仮説3 「多様な解決方法を身につけさせ、話し合いによる追究の場の工夫をすることにより、自分の考えを持ち、互いに伝え合う力を育てることができるだろう。」

自力思考の段階で時間をとり過ぎないように、解答が出ていない場合でも話し合いに入ることにしてきた。

研究協議では、討議の柱を①「主体的に取り組み、自分の考えを伝え合う授業となっていたか。」②「効果的な『わたり』『ずらし』『ガイド学習』となっていたか。」とした。

①については、課題提示の工夫や自力思考での支援の効果について、活発な意見交流がなされた。②については、ガイド学習を定着させるための指導法や、同時間接指導の観点について熱心な討議が展開された。「理由を証明していく課題設定等が、子どもを主体的な学びへと導いていた」「すべての学級において、同じスタンスで授業が展開されていた。」等の評価を得た。

3 今後の課題

「課題とまとめの整合性」「教科書にある言葉を使ったまとめ」等について、充実させていく必要がある。



〈第9分科会：池田町立高島小学校〉

1 研究主題

「生きる力」をはぐくむ食育

～学校と家庭・地域との連携を通して～

2 研究仮説と成果

仮説1 「教育活動に食育を取り入れ、意図的な体験活動を行うことにより、自分たちの生活と学習内容が密接に結びつき、学習意欲が高まり、学習内容の定着を図ることができるだろう。」

授業に食育の視点を取り入れることで、学習内容と生活体験とがつながるため、学習意欲や自力解決力、学習内容の定着と結び付くと考えている。

仮説2 「地域の人材や栄養教諭の専門性を授業に取り入れることにより、いろいろな視点から物事をとらえ、思考、判断する力の向上を図ることができるだろう。」

栄養教諭やJA青年部との連携で、学習内容の実感を伴った理解や、今まで気づけなかった視点から考える力が身に付くと考えている。

仮説3 「家庭・地域との連携を密にすることにより、自らの食生活を見直し、食への意識が高まり、健康で安全な生活を高めることができるだろう。」

学校での指導内容を家庭に情報提供し、食に関する実態や指導内容等について家庭・地域と連携することが、食への意識を高めることにつながると考えている。



研究協議では、討議の柱を①「教育活動に食育を取り入れ、意図的な体験活動を行うことで、学習意欲が高まり、学習内容の定着を図ることができたか」②「家庭や地域、栄養教諭と連携を図ることで、様々な視点から授業を深めることができたか」として進めた。

「食育計画を作成し、意図的な食育の授業ができています。」「ゲストティーチャーを活用する場合は、目的、時間設定等、綿密な打ち合わせが必要。」

「社会科で、食を切り口に地元の農産物や人材を活用することで効果的な指導ができる。」等の意見があった。

3 今後の課題

実践的態度をはぐくむことが大切であり、表現活動の位置づけをして教科の目標を実現することが重要である。そのための食育ととらえることが必要である。

《次期開催地から》 **第64回全道へき地複式教育研究大会宗谷大会**
 □■□**最北の学び合いに、皆様のご参加をお待ちしています**□■□

第64回全道へき地複式教育研究大会宗谷大会実行委員長 **井村 雅彦**

「大空と大地の恵み『十勝野』に生き 新しい時代を切り拓く子らに 豊かな心と確かな学力を」の大会スローガンのもと開催されました、第63回全道へき地複式教育研究大会十勝大会が、全道各地より多くの参加者を迎え、成功裏に終わられましたことに、心より敬意を表しますと共に、大会成功に向け、ご準備頂きました実行委員会の皆様、各学校の教職員の皆様に、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、平成27年度の大会は、花の浮島礼文島、秀峰利尻富士を望む日本最北端の稚内市を主会場に、宗谷管内での開催となります。9月17日(木)

全体会と分散会を稚内市、18日(金)の分科会は、1市6町1村の9会場で行います。本年度の十勝管内から始まり「第9次長期5か年研究推進計画」の成果を引き継ぎ、更なる充実を図るため、準備を進めているところです。

広大な宗谷丘陵に牧草を食む牛の群れ、ホタテや蟹の水揚げで活気ある港、樺太を望む宗谷岬等々、自然の雄大さの中に抱かれ、元気に活動する宗谷の子供たちの姿を是非ご覧頂き、多くの貴重なご示唆を頂きますよう、実行委員会一同、心よりお待ちしております。

大会スローガン

**最北の風薫る宗谷の海と大地に生き
 未来を担う子らに 豊かな心と確かな学びを！**

開 催 日

平成27年9月17日(木) 全体会・分散会 / 18日(金) 分科会

分科会	会場校	研 究 主 題 ～副主題～	分野・課題 教科領域等
1	猿払村立 浜鬼志別小学校	自ら学び、基礎・基本を身につける子どもの育成 ～わかる・できる を実感させる授業づくりを通して～	学習指導 7 国 語
2	猿払村立 浅茅野小学校	小規模校で児童を変容させるための集合指導はどうあるべきか ～集団活動を通して自己を高め連帯感を育てる～(集合学習)	学習指導 7 音楽・体育
3	浜頓別町立 頓別小学校	学び方を身につけ、見通しをもって意欲的に学ぶ子どもの育成 ～複式学級における算数科授業づくりを通して～	学習指導 6・7 算 数
4	枝幸町立 乙忠部小学校	確かに表現できる子どもの育成を目指して ～国語科における言語活動の充実を通して～	学習指導 6・7 国 語
5	豊富町立 兜沼小中学校	主体的に学び、考えを伝え合う子どもの育成 ～言語活動を生かした授業づくりを通して～	学習指導 6・7 算 数
6	幌延町立 問寒別小中学校	深く考える子の育成 ～言語活動の充実を通して～	学習指導 6・7 国 語
7	礼文町立 香深井小学校	自ら考え、かかわりあい、伝え合う子どもの育成 ～楽しくわかる授業づくりを通して～	学校・学級経営 4 学習指導 6 全教科
8	利尻町立 仙法志小学校	複式校における現状と課題をとらえ、効果的な学習のあり方 について自ら学び続ける心豊かな子どもの育成 ～理科を通して～	学校・学級経営 1・4 学習指導 5・6・7 理 科
9	稚内市立 宗谷小学校	意欲的に学び、自ら表現できる子どもの育成 ～共に考え、表現し、練り合う授業づくり～	学習指導 6・7 国語・算数・社会